JCRTM2024 参加報告

華岡青洲記念病院　山口隆義

皆様こんにちは、華岡青洲記念病院の山口です。このメルマガが配信される頃は、もう冬景色になっているかと思いますが、今回私が参加報告させて頂くのは、10月31日から11月3日に開催されました第1回日本放射線医療技術学術大会（JCRTM2024）です。

沖縄で開催されたこの会は、日本診療放射線技師会と日本放射線技術学会とは合同で開催することになった学術集会で、とても歴史的な出来事なのです。新型コロナウイルスによって、2020年の秋に開催を予定していた両会の学術集会が中止となり、その年に行われた両会の会長及び代表による合同インタビューの際に、一緒に学術集会を開催する構想が話し合われ、それがようやく実現したわけです。北海道は技術学会より技師会に入会されている方が多いと思いますが、実は、他の地域では両会が合同で、地方の学術集会を開催している所が多いのです。北海道では未だ実現されておりませんが、私が技術学会の北海道支部の支部長を務め始めた年から、技師会の会長に合同開催の提案をして参りました。そろそろ北海道でも、それが実現される事を期待している所です。

という訳で、気温が5度の北海道から30度近い沖縄までひとっ飛びして、早速汗だくになりながらJCRTM2024の会場となった沖縄コンベンションセンターに向かいました。今回の学術集会の最大の特徴は、一般演題の区分が研究と報告の2本立てであった所かと思います。倫理の関係で、市中病院に勤める我々のような技師にとって、研究はハードルが高い状況となっておりますが、報告であれば日常の取り組みを多くの方々に伝えられますよね。これによって、演題数は800演題近く集まったようでした。

キヤノンCTに関する演題も多くありました。私が座長を担当したセッションでは、CE boostと3Dバイラテラルフィルタを併用して、造影剤や線量を増やさずに心筋遅延造影のコントラスト強調と

ノイズ低減が可能であったとの報告や、冠動脈CTに対するPIQEとプレシジョンの比較などがあり、他のセッションでは大動脈STENTグラフト術後のエンドリーク評価を目的にbolus trackingを320列のdynamic撮影で行い、4Dと広範囲の3D画像を同時に得るという方法も報告されてました。また、胸部の模擬腫瘍を体軸方向に動かしてCLEAR motionの評価を行っていた演題もありましたが、motion correction技術の評価は今後色々と考えていく必要があると感じました。

秋とは言っても暑い沖縄ですので、“かりゆし“での参加が OK という事で、いつもの学会とは異なり華やかでリラックスした雰囲気でした。私も“かりゆし“を用意しようと思っていたのですが、たまたま父親のタンスを整理していたら、なんと“かりゆし“とタグに書かれたシャツが出てきまして、これを譲り受けて持っていく事ができました。また、学会後には沖縄料理を頂きながら沖縄民謡の生演奏を聴き、最後にはカチャーシーという踊りをお客さん全員で踊るという事も体験し、ちょっと南国感が感じられた学会参加となりました。実は、来年の JSRT 秋季大会は札幌で開催されます。日本の南から北に大移動です。地元民として良い“おもてなし“が出来たらと思っています。

会場の沖縄コンベンションセンター

会場横のトロピカルビーチ：音楽フェスの準備をしていました.